

「春がくるくる」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 花は春の訪れを知っている

卒業証書授与式の日、華道部が飾ってくれた生け花はまんなかで上に向かって咲くオレンジのユリがあまりにも鮮やかなものでした。祝いの日にあふさわしいですね。一方、先週末に実施した学力検査が無事に終わった校舎内は、その合否判定作業があるため本日も生徒本館立入禁止ということで、ひっそりとしています。



ふと見やると窓際の胡蝶蘭が新たな芽を伸ばし、その先に蕾を蓄え始めました。私達の世界では初めて校長になった方に、お祝いとして胡蝶蘭を送る風習があります。2年前の春、私も初めて校長になったので、先輩方や後輩達から校長室いっぱいの胡蝶蘭を送っていただきました。また、去年の春も有り難いことに送っていただきました。上手に育てると、胡蝶蘭は鉢植えのままでも翌年に新たな花を咲かせます。そこは勝負どころでもあります。今年もいくつか咲いてくれそうで、嬉しく思っています。かつて胡蝶蘭に絡めて書いた通信がありますので、今回添えておきますね。

さて、早や年度末ということですが、イベントはなお盛りだくさんです。先々週には加古川東高校の理数科2年生が来校し、本校の総合理学科2年生と交流をもちました。新先生と私にとっては1年ぶりの再会でしたが、みな相変わらず元気いっぱいの笑顔を見せてくれて嬉しかったですね。アイスブレイク的なワークショップが盛り上がった勢いでその後の研究発表会、グループワークも温かい、いい時間になりました。

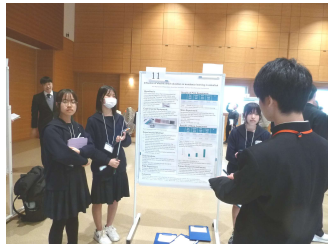
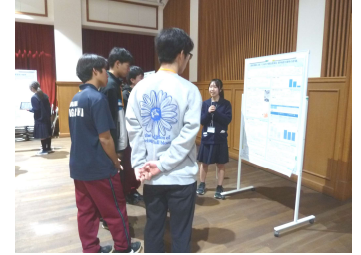


ちなみに、以下は本校生が加古川東の生徒と交流した当日の感想です。

「とても話しやすく、それでいて聡明だと思いました」「アイデアがユニークで豊富!」「先行研究をよく調べている」「面白くて優しくて好奇心が旺盛な人たちですね」

続いて、加古川東の生徒が本校の生徒との交流を通しての感想です。

「計画的に研究をしていて尊敬した」「みんな賢そうでフレンドリーでした」「話してみると気さくで面白い人が多かったです」「研究発表が非常にわかりやすかった」



また、先週はじめには総合理学科1年生が兵庫高校、明石北高校の同学年との合同発表会を終えた翌日、兵庫高校2年生との合同英語発表会に臨む、というハードスケジュールに挑んでくれました。多くの刺激を受け、発表を重ねる度に成長していく姿が見られて、実に頼もしかったですね。

人が人に魅かれるのは、いくつかの偶然が重なったものです。出会ったことはもちろん、目と目が合ったこと、互いに交わした言葉、それによって動かされた心…。それらすべては偶然がもたらしたものです。ただ、そこから先は自分次第なのです。その出会いをさらに佳きものにするか否か。だからこそ、吉川幸次郎博士は本校の校歌に「わこうどは むねのとをひかりにひらけ」との言葉を入れ込んだのかもしれませんが。胸の戸を閉じた自分では憧れに近づくどころか、憧れる機会さえも持てないかもしれませんからね。

さて、先週にお伝えしましたが、ラグビー部が「第27回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会」出場を決めました。折しもラグビー部は創部100周年。周囲の期待はさんざんに高まっています。先日も、OBの方からタックルマットを寄贈していただきました。これで怪我をする心配が薄れますね。

本校を支えてくださる皆さん、いつもありがとうございます。



「窓際に咲く薄紫色をした蘭の話」

高校教育課長
新谷 浩一

○ 細見校長先生の思い出

神戸工業高校の校長先生で卒業された細見博一先生は、僕の高校時代の恩師の1人です。物腰の柔らかい保健体育の先生で、教官室に呼び出されては叱られてばかりいる僕に対しても、廊下で会えば「おっ、元気か」と笑顔で声をかけてくれる先生でした。その姿は、僕の顔を見るなり睨んだり不機嫌そうな顔をする他の先生方とは違い過ぎて、逆にどんな表情をすればいいのか僕は戸惑っていましたね。

その後、教職を選んだ僕は偶然にも細見博一先生の奥様と同僚になりました。特に、県教育委員会の指導主事になる直前の数年は同じ学年団で担任をしていたため、より親しくさせていただくようになり、結果としてご夫婦の家でご飯をご馳走になるようなこともありました。

細見博一先生は遅咲きで、学校長に昇任されたのは59歳になる年でした。定時制で、しかも自分の恩師で、という気安さで仕事帰りにぶらりと立ち寄らせてもらうこともありました。でも、細見校長はきまって校長室にいません。廊下で生徒と話し込んでいたり、職員室や事務室でお茶を飲んでいたり。

「本当に校長室にいないですよ」僕がそう言うと「だって僕は2年しか校長ができないからな。せっかくなれたんやから、濃密に過ごさんと…」とのこと。僕が高校生の頃と少しも変わらない笑顔で。

やがて退職。しばらくはお会いできたのですがコロナ禍となり疎遠になってしまいました。それでも昨年4月、僕が阪神教育事務所長となり所長室に入ると、贈られた蘭の鉢植えの1つに細見校長と奥様のお名前がありました。飛び上がらんばかりの嬉しさで、お礼の電話をさせてもらったものです。

蘭はとても育てるのが難しい花だと言います。それでも春が終わり枯れてしまった後、丁寧に世話をすれば翌年の春に再び花を咲かせることがあると聞きました。やがて1年が経った今年3月、再び花が咲いた3つの鉢植えの1つは細見夫妻から贈られたものでした。嬉しさのあまり僕は電話しました。

「今年も花が咲きました」電話に出られた奥様にそう伝えると、とても喜んでくれました。そしてもう一つ僕にはお伝えすることがあります。「4月から高校教育課長となるよう内示がありました」そう伝えました。奥さんはそのことも喜んでくれました。「仕事から帰宅したらすぐに主人に伝えるね」と。

でも、その翌日、細見校長先生は亡くなられました。勤務中に突然倒れたとのことでした。告別式の会場で奥様が僕に話されます。「あの夜、新ちゃんからの電話の話をしたら主人はすごく喜んでね。

『あいつ、教職員課を出てから部署を転々としているやろ。この先どうなるんやろって本当は心配してたんや。ああ、よかった。これで安心できるわ』そう言ってたんよ。その矢先でね…」あとはただ涙でした。

この4月1日、課室に届けられた薄紫色をした蘭には当たり前のようにご夫妻のお名前がありました。「それを贈ることが主人の最後の願いになるなんてね…」奥様がそう言われます。細見校長先生は今も笑顔で僕の課長としての頼りない背中を見守ってくれていることでしょう。

どれだけ多くの人に支えられて、今の自分があるか。

恩返しをしたい方がたくさんいる僕の人生は、きっと幸せなんだろうな。雨の日も風の日もそう思いながら、僕は生きています。

